



遠山奇談

五入

二

^13
4437
2



113
4437
2



遠山奇談卷之二

○才六章

秋名山奥の流 此く半
巻一 是水山伝 此く半 此く半

ついでに秋葉山奥院の流。百六十町と云ふ。此の流は、
流と云ふは、いりふふ、流りありて、日づけ、ふり、夏、
ふり、まねた。三月より十月、六月、此の流、
と流り、人まき、いりて、宮、此の流、
此の流、血、いり、あり。又、あり、此の流、
三、此の流、此の流、此の流、
此の流、此の流、此の流、
此の流、此の流、此の流、
此の流、此の流、此の流、

○才六章

○

えりりそりり百十也して水久保村あり又ここのがかり
三十りりののけに板を二天りふんて白と濁りふん
物なる板を水澄と入下せ九十四回中ふん
けとこころふ月くこころいとおほしあまのい水久保村
ゆあつこいこたのきく一後とらふんこまり

○廿七章

山平をう家小遠る一権作をまるとやまの
海あへ入けやまの太木とんけりし

卯月十日ふんまきと八つとくふ加丁たつらうり
山平三十八の石を奥山平たつらうりけ日ふん
足と休みむのぬぐいとかるに志ざれやうととと感
せられてもふ力と海られ懸懸ふりくたふふりたふ

かどえりりもり奥山人家うらうら何事
一畑なまもたけし陸背溜道浪紙等徳者一よま
ろこ十挺海一面ふらう平をのりづろ権作をまるとし
つれたうにゆら海ふにひうさて諸之河山王の荒業
海り又ふかむみ海つらふんとるた海たふるぬかどとが
海のにさむいふいふふんふんふんふん海なる也
とふもり奥うらふ路う一是と暮のりるに夜はると
もてらふらふまふはけいむるほのぐくむる煮と
こんれが山王の荒つくき山の佃水ふんはすまうら
とかなふんたふもどいけ海門とつふん丁中

款ごりま

○才八章

保山にんトウ一節
大なる瀧除ふ水

山中の木の葉を
くまればその高所の
一石にひらくところ
を木をさし
とまぐらつら
おのつれ
て中へ湯あび
とまぐらつら
おのつれ
て中へ湯あび

くまればその高所の
一石にひらくところ
を木をさし
とまぐらつら
おのつれ
て中へ湯あび
とまぐらつら
おのつれ
て中へ湯あび



いふふいづりき大木あり 目録一丈八尺寸五分 ありあり 九尺寸五分
 大木なる由松平丸のふふりけ本根あり 根 して朽木
 ふてわあるんと鏡の同弁 同弁 して斧と 斧 ちたれけ ちたれけ
 一丈大枝のまじり まじり ならん大木なる 大木 一丈余 一丈余
 一丈余 一丈余 松平丸のふふり ふふり 深ふ 深ふ あり あり
 り り 野 野 あり あり 一丈 一丈 あり あり 一丈 一丈 あり あり
 四尺二寸厚 四尺二寸厚 二尺余 二尺余 なる なる 一丈 一丈 あり あり
 一丈大枝 一丈大枝 あり あり なる なる 一丈 一丈 あり あり
 尺 尺 あり あり 下 下 あり あり なる なる 一丈 一丈 あり あり
 七 七 あり あり なる なる 一丈 一丈 あり あり
 深 深 あり あり なる なる 一丈 一丈 あり あり
 深 深 あり あり なる なる 一丈 一丈 あり あり

いん いん あり あり なる なる 一丈 一丈 あり あり
 ん ん あり あり なる なる 一丈 一丈 あり あり
 さ さ あり あり なる なる 一丈 一丈 あり あり
 け け あり あり なる なる 一丈 一丈 あり あり
 の の あり あり なる なる 一丈 一丈 あり あり
 勢 勢 あり あり なる なる 一丈 一丈 あり あり

○才十章

石 石 あり あり なる なる 一丈 一丈 あり あり
 方 方 あり あり なる なる 一丈 一丈 あり あり
 形 形 あり あり なる なる 一丈 一丈 あり あり

たいくの洞(きび)のまきれあつてい皆火と力とする
 りりかなをれがれもとぐう焼火くこれとさのた
 夜あれ暮しひあまのあさぬ後にまどの杖集くと
 せしめんとかたいたはらぬ艱難いあのかどをさねど
 此まよる岩智あつてくあまに丸まらる由りやいとせら
 しこむららふ止まてあはくかたはくはくはく
 一車とめぬあふ程も色くあつてふたつはまの
 小畑(まゆ)のうさび垣曾のくとけるべくとまらる
 りふふ大木あつてはらあまのづれも一丈二丈入る
 ちかづつとくぬ新ふとよもさのりか大さる杉足あまら



しんがりのこりくくけわゆとゆき男のもしんが
奇めくろく櫓くくく入てぞりさる

まじりて表之二終

